

見える化、予防保全

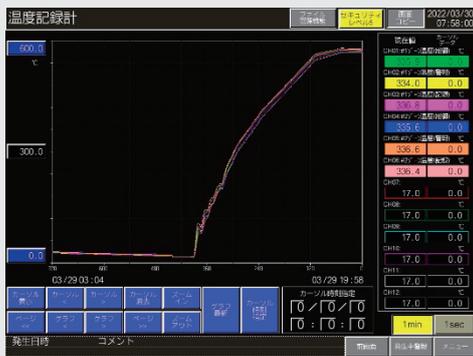
コンセプト

- 設備の突発停止リスクを回避(=予防保全)
- 設備保全の省力化、省人化

特徴

A STEP ① 設備の見える化

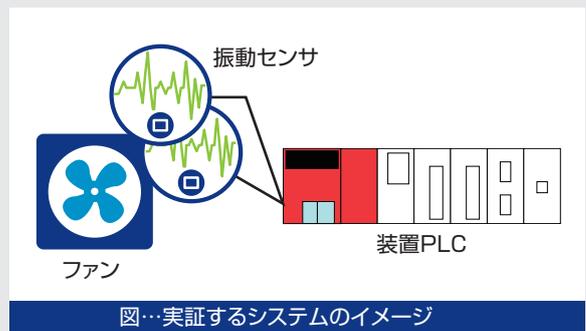
- 稼働中の温度や流量等がリアルタイムで監視



- 一定数値、回数に達すれば、交換を推奨
例) 電磁弁の軽垢回数、火災検知器使用時間等

項目	現在値	設定値	現在値	リセット日時
1 #1ゾーン 蒸気ファン 運転時間	10000	10000	残り	2022/03/31 15:07:53
2 #2ゾーン 蒸気ファン 運転時間	10000	10000	残り	
3 #1ゾーン 蒸気ファン用冷却ファン 運転時間	10000	10000	残り	
4 #2ゾーン 蒸気ファン用冷却ファン 運転時間	10000	10000	残り	
5 冷却ファン 運転時間	10000	10000	残り	
6	0	10000	残り	
7	0	10000	残り	
8	0	10000	残り	
9	0	10000	残り	
10	0	10000	残り	

- 機器の劣化を定量的に出力
例) ファン振動数、モータ電流、ヒータ抵抗値等



- 炉月報を自動作成し、稼働状況等の見える化
例) 稼働時間、原単位、異常警報ランキング等



B STEP ② クラウドによるデータ共有

- クラウド上で設備データをリアルタイムで監視
- 異常状態を三建とタイムリーに共有でき、早期解決が可能



※2022年4月試験運用開始

C STEP ③ AIによるBIGデータ解析

- AIにて異常予兆を判断し、異常が起こる前に情報発信
- さらなる品質UP 安定化に貢献

